

町地域おこし協力隊 乾藍那さん

アイヌの手仕事を紹介する冊子を制作  
～次世代につなぐため、手を動かしてきた人たち～

冊子はA4判28頁、カラーで4,000部発行（非売品）。「ハポ」はアイヌ語で「母」の意味。町内で活動しているアイヌ文様刺しゅうや織物、木彫りなどを制作する5個人8団体と伝承活動団体4団体を掲載しています。

作家にスポットを当てた冊子『白老ハポの手仕事』

作家の思いを伝えたい

乾さんは活動2年目のアイヌ文化振興担当。アイヌ文化の勉強を重ね、広く文化伝承の振興をサポートしながらアイヌの手仕事の取材を続けているうちに「製作活動だけではなく、作家の皆さんの人生に思いをはせるようになりました」

この思いを、作家の活動を始めたきっかけや情熱、自然や先人への感謝、つらかったこと、生活、生き立ち、伝承文化への思いなどを一問一答のインタビュー形式で引き出しています。「縫い目にかくれた物語をひもとき、作家たちが手仕事に込めた秘密を、少しだけ教えてくれるでしょう」（巻頭）という冊子に仕上げました。

取材を通して「子育てや仕事の関係で『手仕事を本当はやりたいけれどできない』という人が多いのではないかと気づきました」と、同冊子では「特に若い人は時間もお金もないことが多く、文化伝承を助ける仕組みが必要」とも訴えています。

紀伊國屋書店札幌本店で作品展示・販売会

また、掲載した作家たちの作品を実演・展示・販売する「白老ハポの手仕事展」を4月29日～5月4日、紀伊國屋書店札幌本店2階ギャラリー&イベントスペースで開催中。白老に根づくアイヌ文化の刺しゅうや木彫り、革工芸、織物など作品約100点を道都で紹介しています。

乾さんは「私自身、女性の生き方を学びました。これからも広くさまざまな視点からアイヌ文化を紹介していきたい」と、さらなる活動に意欲を見せています。

冊子は役場や観光協会など町内各所で無料配布しています。希望者はゆうメールなどでも着払いで郵送します。問い合わせは乾さん（☎070-2642-6587）へ。



地域おこし協力隊通信



高島勇揮さん(36)

観光振興担当(2年目)

私は現在、役場や町内の多くの事業者さんにご協力いただいで、ITを軸にしながら、これまでの経験に基づき、素晴らしいチャレンジをさせていただいています。

その一つとして、第2次白老町商業・観光振興計画に記載されている「白老観光協会のFacebook フォロワー数を約850人(着任当時)→令和9年度3,500人まで増やす」という目標について、集中して尽力し、昨年の10月中旬に前倒しで達成させることができました。

これをきっかけに最近では町内の事業者さんからお声がけいただくことが増え、SNSなどのIT活用相談を受けさせていただくことも活動の一つとしています。

また現在、同じ協力

町内事業者のIT化のお手伝いを

隊の鄭さんや乾さんと協力し、鄭さんがつくった観光誘導キャラクター「ウエちゃん」を活用した「ウエちゃん計画」を、町おこしプロジェクトとして試験的に実施しています。最終目標は、町内の温泉付き物件を事務所にしてITの会社を立ち上げること。その目標のためにこれからも厚かましいですが皆さんのお話しになります。よろしくお願いたします。

